

金日成主席が残した偉大な貢献

ビタル・バラ
コンゴ朝鮮友好協会会長

金日成主席が社会主義朝鮮の未来のために成し遂げた業績の偉大さは、70年以上に及ぶ金日成主席の歴史を見るだけで十分に理解できます。

金日成主席は、朝鮮民主主義人民共和国の執権党と人民軍の父です。

主席は、朝鮮が日本の占領下にあったときから革命の道を歩むようになり、朝鮮人自身の力で国を解放する方針を打ち出しました。主席彼は朝鮮人民を結集し、日本の占領者を破壊し、15年間の武力闘争を経て、1945年8月ついに祖国を解放したのです。

私は、彼が朝鮮社会の導き手である朝鮮労働党を設立したことを称賛します。主席は、日本の占領者に対する革命闘争の時代から、党設立のための準備を進めていました。党の基本構造を確立し、党の大衆基盤を拡大・強化した上で、党中央委員会の設立を宣言する必要性を強調しました。

このようにして、朝鮮労働党は1945年10月、祖国解放から2カ月も経たないうちに設立されました。

それ以来、朝鮮労働党は金日成主席の指導の下、朝鮮人民のあらゆる勝利の組織者、指導者としての役割を十分に果たしてきました。

祖国解放後、金日成主席は民主主義への道を開くために、土地改革をはじめとする民主的改革を次々と実施し、国家建設のための強固な基礎を築きました。金日成主席の指導のもと、1948年9月、東洋初の人民民主主義国家である朝鮮民主主義人民共和国がついに建国されました。

私は、金日成主席が、日本占領軍との武力闘争当時の正規軍であった朝鮮人民革命軍を強化し、朝鮮人民軍を創設したことに祝意を表します。

金日成主席は国家の発展のために永遠の道を切り開きました。

私はチュチェ思想は生涯にわたって学ぶべき政治思想であると言っています。世界が東側陣営と西側陣営に分かれ、激しい政治的・軍事的対立が繰り返されていたとき、金日成主席は社会主義の道を選びましたが、決して外部勢

力が主導権を握ることはありませんでした。主席はチュチェ思想にもとづき、一貫して公明正大な態度を保ち、民族独立の路線を歩みました。

朝鮮民主主義人民共和国は主席の指導の下、世界の自主化のための先頭に立ち、20世紀を自主の時代にするために大きな貢献をしました。

政治的自主、経済的自立、国家安全保障上の自衛は、朝鮮の発展様式を決定する主要な思想であると言えます。

金日成主席は、他の社会主義国のように COMECON（経済相互援助会議）への参加を拒否し、自立した人民経済を構築することを選択しました。金日成主席は、朝鮮人民を率いて、帝国主義連合軍の武力侵攻を撃退し、朝鮮戦争（1950～53年）で大勝利を収めました。金日成主席の指導のもと、国家は自ら強力な軍需産業を構築し、朝鮮人民軍を無敵の革命軍に強化しました。このようにして、国の防衛力は難攻不落の状態にまで強化されました。

ソ連をはじめとする東欧の社会主義国家が次々と崩壊していく中で、朝鮮が社会主義の旗を高く掲げて自らの選択した道を揺るぎなく歩むことができたのは、ひとえに金日成主席が打ち立てた自主路線によるものである。

また、金日成主席が人民大衆を中心とした社会主義体制を構築し、人民の幸福のための強固な基盤を築いたことを称賛します。金日成主席は、人民をすべての主人とし、すべてを人民のために役立てました。

金日成主席の指導のもと、国家は人民に衣食住を提供し、無料医療、無料教育の制度を確立しました。

また、金日成主席は、国家が人民のための社会主義的措置を絶えず拡大・強化し、世界で初めて課税を完全に廃止しました。

党首、党、人民大衆の一枚岩の団結を実現し、人民大衆を中心とした社会主義に比類ない活力を与えた金日成主席に花束を捧げます。

視察の際、主席は常に庶民と一緒に過ごし、気さくに話しかけ、しばしば親に代わって生活状況を尋ね、より良い生活を送るための方法や手段を伝えました。人民のために何でもしたのです。このように朝鮮では、指導者と人民との間に強固な一枚岩のような結束が確立されており、その結束は世界の多くの人々が賞賛しています。

進歩的な人類が無条件に敬愛する朝鮮の金日成主席は、朝鮮の解放のために

大きな貢献をしてきた。彼の業績の中には、アフリカの人々の民族解放と彼らのための新しい社会の建設に対する崇高な国際援助があります。

1950年代半ば、アフリカ大陸で初めて反帝国主義、反植民地主義の武装闘争の聖火を掲げたアルジェリア人民の民族解放闘争が大きな困難に直面していたとき、朝鮮の金日成主席は兄弟であるアルジェリア人民に積極的な支援と激励を与えました。

当時、朝鮮の人々は、米国による朝鮮戦争（1950年～1953年）によってすべてが瓦礫と化し、困難な状況の中で戦後の復興を進めていました。そのため、他人に援助できる状態ではなかった。しかし、金日成主席は、アルジェリア民族解放戦線の武力闘争を積極的に支援し、その闘争の勝利のために無私の物質的援助を行った。また、アルジェリア共和国の臨時政府を初めて承認し、外交関係を樹立したのも彼である。1975年5月にはアルジェリアを歴史的に訪問し、ウアリ・ブーメディエン大統領をはじめとするアルジェリアの指導者や人々との親密な友愛関係を継続しました。

また、金日成主席はモザンビーク人民の民族解放闘争を支援したが、これも植民地化された国のアフリカ人民の民族解放闘争に対する金日成主席の国際協力の一例です。

1971年9月、モザンビーク解放戦線議長で人民解放軍総司令官のサモラ・モイス・マヘルが朝鮮を訪問した際、金日成主席は彼に謁見しました。金日成主席は、帝国主義に対する闘争の主導権を緩めてはならないと語り、勝利のために従うべき方向と手段を一つ一つ教えていきました。祖国に戻ったマシエルは、金日成主席の指導の下、解放戦線の内部を固め、原生林の中にゲリラの秘密基地を作り、それを使って敵を殲滅し、ついに植民地支配に終止符を打つという歴史的な出来事を成し遂げました。偉大な英雄である金日成同志がわれわれに進むべき道を示してくれたように、われわれは祖先とわれわれを縛っていた鎖を断ち切り、奴隷の宿命から脱却し、解放を謳歌しています。われわれの祖先の願いまでも翻訳して彼に感謝の意を表していただきたい。

私は、金日成主席の教えを受けたのは、アルジェリアとモザンビークの人々だけではないことを宣言します。

ウガンダ、ジンバブエ、ナミビアなど、多くの国が金日成主席の恩恵を受け、

民族解放と独立を成し遂げたことは、感動的な出来事でした。

当時、アフリカでは「革命のためには金日成同志に会うことが不可欠である」という表現が使われていました。

金日成主席は、アフリカの国で新しい社会を築くために、私心のない物心両面の援助と協力をしてくれました。

1970年代半ば、朝鮮を訪問したトーゴのエヤデマ大統領は、金日成主席に朝鮮の貴重な経験を教えてほしいと頼みました。金日成主席は、チュチェ思想に基づいて政治的に主権を持ち、経済的に自立し、自立した社会主義産業国家を建設した朝鮮人民の経験について、自信の強さでトラクターを建設することから始めたことを詳しく説明しました。その後、国内に国家幹部が不足していることを考慮して、現地に党校を建設することを提案しました。朝鮮からトーゴへの輸送が困難な資材を購入してでも美しく建設すべきであり、この党校は国への贈り物であると述べました。このように、トーゴの首都には、人民結集党高等学校が見事に建設され、この国の新しい社会づくりをリードできる有能な幹部を多く養成しています。

金日成主席は、アフリカ諸国から人材を求められればそれを送り、工場や農場の建設を支援してほしいと言われれば、必要な資金と資材を提供しました。金日成主席の物心両面の援助は、経済分野だけでなく、政治、軍事、教育、公衆衛生、スポーツなどさまざまな分野に及び、その額も桁外れでした。

当時、金日成主席がアフリカ諸国に誠意ある援助をしたとすれば、それは朝鮮が金持ちで、すべてにおいて豪勢に暮らしていたからではありません。金日成主席は自国の幹部たちに、「たとえ苦難と困難に耐えなければならないとしても、アフリカ諸国が帝国主義者から政治的・経済的に完全に独立し、自らの足で立つことができるように、誠実な援助をしなければならない」とよく言っていたそうです。

彼の援助と無私の協力のおかげで、タンザニアのザンジバルにあるレンガ工場、チョリマ農業研究センター、競技場、ベニンの印刷所、エチオピアの水力発電所、ギニアの金日成農業研究センター、国立宮殿など、アフリカ大陸のいたるところに多くのプロジェクトが建設された。ガーナのチュチェ・テスト・ファーム、ザンビア・RPDC 友好農場、レソトの一般政府ビル、中央アフリカ

共和国の国会議事堂、ブルキナファソのワガドゥグーの野外劇場と革命の聖火記念碑、ベニンの文化会館、セーシェルの首都ヴィクトリアのユニオン・スタジアムなどです。

1992年9月に訪朝したナミビアのサム・ヌジョマ大統領は、「金日成同志の先見の明のある指導と無私の物心両面の援助がなければ、ナミビアはアフリカ大陸で唯一の植民地国のままであただろう」と金日成同志に感謝の意を表しました。私たちが困難な状況にあったとき、最も積極的な援助をしてくれた同志金日成主席は、ナミビアの人々の師であり恩人です。

私、コンゴ朝鮮友好協会のビタル・バラ会長は、アンリ・エミール・モンドーとダニエル・コイエラを伴って、平壤で金日成主席に謁見しました。私たちは、この非常に重要な会談において、金日成主席の助言を得ることができました。

金日成主席の生前に関係を築いた多くの外国人の友人や著名人は、主席の崇高な人柄、徳の高さ、相互の深い道徳観を感慨深く思い出しています。

確かに、金日成主席は、国家の指導者や政治家以上に、人類への純粋な愛と相互の深い道徳的義務感を持った、限りなく崇高な魂の持ち主でした。